

一、中国の神話・伝説

一、神話とは

一・一、神話と科学

- ・神話は、科学と同じく「¹」や「²」の説明原理
- ・神話は「³」 「⁴」に異なり、科学は「⁴」 」。↓太陽（カラス・アポロン・天照大神）・人類作成（アダムイブ）・世界創世（光あれ・ぬぼほこ・ターレス）

一・二、中国の神話

・⁵「

↓①中国人の現実主義、②神話の記録化の先行（民族統一が遅れる）

・『古事記』（連続的・体系的）やギリシャ神話（共起的・体系的）などに比べて、孤立的・無体系的。

①「⁶」（神話・伝説に冷淡）の国教化により、「⁷」が加えられる。

↓「子不語、怪力亂神。」（『論語』述而）・「敬鬼神而遠之」（『論語』雍也）

②「⁸」の流行により、「⁹」が進む。

↓青龍・白虎・朱雀・玄武の使用など

・その結果、『楚辞』『山海経』『淮南子』等、非主流の書物に断片的に伝わるのみ。

・文献資料と、画像石や墳墓から発掘された副葬品などの絵画資料とから神話を復元する必要性がある。

一・三、天地創造

・¹⁰「（『莊子』齊物論篇・『淮南子』等）

・¹¹「（『五運歴年紀』『述異記』等）※苗族の神話か

・¹²「（『淮南子』『列子』等）鍊石補天・人類創造

二、

二・一、概略

- ・湖南省長沙、三基の墓から成り、埋葬の絶対年代が判明している。一号墓—軋侯夫人。三号造営の数年後埋葬で一番立派。二号墓—長沙国丞相利蒼（軋侯）、前一八六年。三号墓—二人の子供、前一六八年。大量の副葬品が出土。竹簡に隷書で書かれた「¹⁴」（埋葬品リスト）に記録されている。食品・漆器・陶器・化粧具・衣類・楽器など多数。なかでも帛書・帛画を含む漆器と絹織物は、保存状態が良好で華麗。

「¹⁵」——『老子』『易』『戦国策』『五星占』など

「¹⁶」——一号墓・三号墓から出土。絹に描かれた図絵

二・二、丁字型帛画

- ・漢の儒教国教化以後の、儒教的礼教主義が浸透し、形式的になる前の神話的絵画
- ・全体に神話伝説に基づく世界観・昇仙思想を示す。
- ・全長 205 cm・幅 92 cm・4ヶ所にリボン。
- ・上端に横に竹を渡し、これに紐をつなぎつり下げるもの。

三、T字型帛画解説（1号墓）

下 地		界 世 上 地										界 世 上 天										内 容									
22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1										
力士（玄武（北―水なので）・力士等、諸説あり）		魚（水中世界を表わす？）										太陽の中に三本足の「 ¹ 」 三足鳥。」 ↓「日中有三足鳥、月中有兔蟾蜍」（『論衡』説日篇） 「 ² 」――十個の太陽が順番に昇る。一度に昇った為、羿が射落とす。 其の九に中る。鳥皆死し、羽翼を墮す（『淮南子』曰、堯時十日並出。草木焦枯。堯命羿仰射十日。中其九。鳥皆死、墮羽翼）（『芸文類聚』卷一引『淮南子』） 扶桑の枝に残りの太陽が休んでいる。（『山海経』） 月に「 ³ 」 「 ⁴ 」ウサギが仙薬を作っている。（『淮南子』佚文「擣薬」） 西王母、竊以奔月」 「 ⁵ 」他に月の女神、常羲との説も。 「 ⁶ 」補天伝説――天を支える柱が倒れかけたため、玉色石を積み支えた。 人間創造神話――黄土を捏ねて+縄につけた泥水滴で。 ↓「風俗通」曰く、俗に説けらく、天地開闢し、未だ人民有らず。女媧黄土を搏りて人を作る。劇務に力め、暇あらず供す。乃ち縄を絙泥（滴る泥）中に引き、挙げて以て人を為る。故に富貴なる者は黄土の人なり。貧賤凡庸なる者は絙人なり、と」（『太平御覧』卷七八引『風俗通義』） 「 ⁷ 」道教成立よりずっと古い神話――後に道教が取り込む 天帝直属の家臣…拱手の礼で墓主人を出迎えている。 天帝直属の家臣…馬に乗った獣人（？）が墓主人を迎える為に鈴を鳴らす。 「 ⁸ 」+豹（地上世界と天界との接点。地上でありかつ天上。豹は天帝のお使いで崑崙山への案内役）（『山海経』「崑崙之丘、是実惟帝之下都」） 「 ⁹ 」鵬鳥（不吉・死の象徴。） 鳳凰。⑦に同じ 龍車（または龍舟）とその車蓋（軟侯夫人と随行とを天上世界へ運ぶ） 「 ¹⁰ 」ませる。佩玉…おまもり。金縷玉衣…死体が腐らない。羊脂玉…最高級品 珩（玉の一種）…璧とともに祭壇にしつらえられたものを象徴的に表示 縫（リボンの束）――祭祀用 句芒（『山海経』では、人に幸せをもたらす神様） 冥福を祈るための祭り 竜が壺の形をしている（壺には人の魂が宿る↓天に昇る／宗教的意味）										「 ¹ 」が「淮南子」精神訓「日中有踰鳥」高誘注「謂三足鳥。」 「 ² 」――十個の太陽が順番に昇る。一度に昇った為、羿が射落とす。 其の九に中る。鳥皆死し、羽翼を墮す（『淮南子』曰、堯時十日並出。草木焦枯。堯命羿仰射十日。中其九。鳥皆死、墮羽翼）（『芸文類聚』卷一引『淮南子』） 扶桑の枝に残りの太陽が休んでいる。（『山海経』） 月に「 ³ 」 「 ⁴ 」ウサギが仙薬を作っている。（『淮南子』佚文「擣薬」） 西王母、竊以奔月」 「 ⁵ 」他に月の女神、常羲との説も。 「 ⁶ 」補天伝説――天を支える柱が倒れかけたため、玉色石を積み支えた。 人間創造神話――黄土を捏ねて+縄につけた泥水滴で。 ↓「風俗通」曰く、俗に説けらく、天地開闢し、未だ人民有らず。女媧黄土を搏りて人を作る。劇務に力め、暇あらず供す。乃ち縄を絙泥（滴る泥）中に引き、挙げて以て人を為る。故に富貴なる者は黄土の人なり。貧賤凡庸なる者は絙人なり、と」（『太平御覧』卷七八引『風俗通義』） 「 ⁷ 」道教成立よりずっと古い神話――後に道教が取り込む 天帝直属の家臣…拱手の礼で墓主人を出迎えている。 天帝直属の家臣…馬に乗った獣人（？）が墓主人を迎える為に鈴を鳴らす。 「 ⁸ 」+豹（地上世界と天界との接点。地上でありかつ天上。豹は天帝のお使いで崑崙山への案内役）（『山海経』「崑崙之丘、是実惟帝之下都」） 「 ⁹ 」鵬鳥（不吉・死の象徴。） 鳳凰。⑦に同じ 龍車（または龍舟）とその車蓋（軟侯夫人と随行とを天上世界へ運ぶ） 「 ¹⁰ 」ませる。佩玉…おまもり。金縷玉衣…死体が腐らない。羊脂玉…最高級品 珩（玉の一種）…璧とともに祭壇にしつらえられたものを象徴的に表示 縫（リボンの束）――祭祀用 句芒（『山海経』では、人に幸せをもたらす神様） 冥福を祈るための祭り 竜が壺の形をしている（壺には人の魂が宿る↓天に昇る／宗教的意味）									

【参考文献】 曾布川寛『崑崙山への昇仙』（中公新書、中央公論社、一九八一年）